

ごみ拾い 760人が汗

札内川河川敷

「第13回クリーンウォークとかちin札内川」(実行委員会主催)が11日午前帯広市内の札内川河川敷で行われた。昨年より100人以上多い約760人の会社員や市民有志がごみ拾いに汗を流した。

河川愛護の啓発と実践を目的に、地元企業や団体などが実行委を組織して毎年開いている。職場やグループなど前年より2団体多い38団体と河川愛好者や家族連れが参加した。

参加者は北愛国交流広場に集合し、開会式では、



河川敷に散乱するごみを拾い集める参加者
(11日午前10時ごろ、折原徹也撮影)

小森正伸実行委員長が「毎年ごみ拾いをしているが、一部の心ない人によってごみでいっぱいになっていく。未来の子供たちのために恒例のラジオ体操をした後、12班に分かれて川沿いの1・5〜2・5キロを歩い

た。空き缶や弁当容器の他、電化製品や衣服など大型の不法投棄も目立った。

今年初めて職場の仲間や家族5人で参加した会社員千葉法弘さん(38)は「過去に参加した人から話は聞いていたが、実際に大量のごみが捨てられているのでひどい」と話し、ごみ袋からあふれるほどのごみを拾っていた。(関坂典生)